

トラウマのケアを学ぶ オーストラリア（ブリスベン・シドニー） 2019/09/11-14

看護科学専修 3年 木田 塔子

研修の目的

性暴力や児童虐待などによって傷を抱えた人がリカバリーを歩むために、ケアという文脈の中でできることは何か知りたいと思いました。そこで、日本よりも専門機関が多く心理社会的ケアが進んでいるように思われたオーストラリアを研修先として選びました。

渡航先での旅程と活動内容・研修を通して学んだこと



09/11 Blue Knot Foundation

主に児童虐待によるトラウマを抱えた人を支援する機関で、彼らが安全や安心を感じられるようにするための技法を研修で学びました。具体的には、「トラウマインフォームドケア」や覚醒状態や緊張を調節するためのエクササイズです。



09/12 Brisbane Rape and Incest Survivors Support Centre

性被害を受けた成人に心理社会的ケアを行う機関でインタビューをしました。被害から何十年も経ってから訪れる人、ソーシャルワーカーによる社会的ケア、など新鮮なことを伺いたくさんの気づきが得られました。
(写真右上はインタビューをしたKendraさん。)

09/12 Bravehearts

性被害にあった子どもと児童期に被害に遭った成人を支援する機関でインタビューをしました。ここでは、加害者してしまった側の子どもに対して再び罪をおかさないようにするためのサポート内容が印象的でした。



09/13-14 Australasian Conference On Traumatic Stress

英語が難しくなかなか理解が難しかったものの、聞いたことのない概念やオーストラリアの文化・歴史的背景が次々とでてくるのは本当に刺激的でした。仲良くなった人々も刺激的でした。



目的を達成できたか

帰ってきてから改めて勉強すると新しいと思ったことが新しくなったりして、私が学んできたことは本当に氷山の一角なんだなと感じますが、支援者にできることが少しずつ見えてきたので良かったです。

グローバルな視点とは何か

違いを認めることもグローバルだと思いますが、共通性に気づくこともグローバルかなと思います。言葉が違うと相手が遠い存在のようにも思えますが、同じ関心を持つ人とは深いところで通じあえる瞬間があって嬉しくなります。

反省点

トラウマと一口に言ってもいろんな見方がありますが、いろんな見方に曝露されすぎてまとめるのが大変でした。もう少し絞ってもよかったかな、と思います。でもこれはこれで良かったです。

将来の進路決定へどう影響したか

英語で行われる学会は過酷で絶望的でした。将来、研究者になるのなら、それまでになんとかしなくては、と思いました。

後輩へのアドバイス

準備が大変かもしれませんが、授業などとはまた違ったたくさんの学びが得られるチャンスだと思いますので、先生方にも頼りながらぜひ行かれると良いと思います。

研修支援制度に望むこと

たくさんのサポートをいただいたので、特に困ったことはありませんでした。とても感謝しています。